

巻 頭 言

質の高い Psychiatry and Clinical Neurosciences (PCN) をめざして

武田雅俊 日本精神神経学会理事
Masatoshi Takeda

本年から PCN が学会機関誌となり、本学会は英文機関誌「PCN」と和文機関誌「精神神経誌」を刊行することとなった。PCN を今まで以上に「質の高い学術雑誌」に育てていただきたい。雑誌の質を表す数字として、誰もが思いつくのはインパクトファクター（文献引用影響率；Impact Factor；IF）であろう。そもそも IF は、自然科学・社会科学分野の学術雑誌の影響度を測るために 1955 年に開発された指標であり、その雑誌に掲載された論文が他の論文でどの程度引用されたかを示す指標である。自然科学 5900 誌、社会科学 1700 誌の引用文献調査に基づいて、当該年の前 2 年間の引用統計から計算される。いわゆる一流雑誌の 2006 年度の IF 値は、NEW ENGL J MED (51.296)、SCIENCE (30.028)、CELL (29.194)、NAT MED (18.588)、NATURE (26.681)、LANCET (25.800) など高い値となっている。

IF 値は、その雑誌に掲載される論文が平均何回引用されているかを示す指標であり、あくまでもその雑誌の「平均的な論文」の被引用回数にすぎない。IF 値は、研究領域によって大きく異なるし、当然のことながら研究者人口の多い領域の雑誌の IF 値は高い。実際には、あたかも研究者の質、あるいは特定の研究論文の質を表現しているかのように間違っ使用されていることも多い。ある論文の IF とか、ある研究者の IF とかはありえないし、自分の投稿した論文掲載誌の IF 値を足し合わせて業績評価とすることも意味がない。このような誤った使い方は慎まねばならない。

IF のほかにも、雑誌の質を示すいくつかの指標がある。Immediacy Index（最新文献指数；II）は、ある雑誌に掲載された論文が当該年度一年間に平均的に何回引用されたかを示す指数である。IF は当該年の前 2 年間の引用統計を平均化しているのに対する最新 1 年の IF とも言える。ある特定の雑誌に対する引用がどれだけ早く他の出版物に現れるかを示しており、この指標の高い雑誌はニュース性が高いということで、先端分野の雑誌の比較に有用である。Cited half-life（被引用半減期；C1/2）は、当該雑誌が引用された回数の各年毎の累積が、引用された総数の 50 パーセントに至るまで過去へ遡る年数をあらわしている。この指標は当該雑誌がどれくらいの期間他の雑誌に引用されているかを示す指標であり、高いほど長く引用される論文が多いということになる。

IF 値順に代表的な精神医学雑誌の指標をみてみよう。

順位	雑誌名	全引用数	論文数	IF	II	C1/2
1.	ARCH GEN PSYCHIAT	29529	127	13.936	2.213	>10.0

2.	MOL PSYCHIATR	6915	101	11.804	1.950	4.0
3.	AM J PSYCHIAT	36565	267	8.250	2.019	7.6
4.	BIOL PSYCHIAT	21735	332	7.154	1.434	5.8
5.	NEUROPSYCHOPHARMACOL	10037	270	5.889	1.130	4.4
6.	J CLIN PSYCHIAT	14984	296	5.533	0.541	5.8
7.	BRIT J PSYCHIAT	16461	166	5.436	1.078	10.0
8.	INT J NEUROPSYCHOPH	1496	76	5.184	0.579	3.6
16.	J PSYCHIATR NEUROSCI	1009	31	4.100	0.839	4.8
18.	ACTA PSYCHIAT SCAND	8249	134	3.857	0.709	9.7
30.	EUR ARCH PSY CLIN N	1748	76	3.042	0.237	6.5
37.	CAN J PSYCHIAT	2952	106	2.531	0.519	6.6
57.	AUST NZ J PSYCHIAT	2448	123	1.900	0.829	5.9
69.	PSYCHIAT CLIN NEUROS	1060	121	1.132	0.091	5.1

PSYCHIAT CLIN NEUROS の全引用数 1060、論文数 121、インパクトファクター（IF）1.132、イミディクス（II）0.091、引用半減期（C1/2）5.1 が意味するところは、PCN 論文がこれまでに合計 1060 回引用されたこと、2006 年の論文の中で（2004 年と 2005 年の PCN 論文が引用された回数 258）/（2004 年と 2005 年の PCN の論文数 228）が 1.132 であったこと、2006 年の論文の中の PCN からの引用回数（11）を 2006 年の PCN 論文数（121）で割ると、0.091 であったこと、PCN からの引用回数 1060 回の分布をみると、50% を超えるのは 5.1 年さかのぼることを示す。

PCN は、2004 年度に 111 編、2005 年度に 117 編の論文を掲載した。2006 年度に掲載された論文において、2004 年度 PCN 論文は 161 回引用され、2005 年度 PCN 論文は 97 回引用されていた。2006 年度 IF 値は、2004 年と 2005 年にある雑誌に掲載された論文が 2006 年中に引用された回数を (A) として、2004 年と 2005 年にある雑誌に掲載した論文の総数を (B) として、A/B で算出されるので、PCN の 2006 年度 IF 値は、(97+161)/(117+111)、すなわち、1.132 という値になる。PCN の IF 値を他の精神医学雑誌と比較すると 94 誌中 69 位に位置づけられる。

PCN の IF を上昇させるためには、(A) を増加し、(B) を減少させることになる。(A) を増加するには、論文を書いてもらい、その論文が Thomson Scientific 掲載の雑誌に掲載され、その論文に過去 3 年以内の PCN 論文を引用してもらうということである。(B) を減少するには、PCN に掲載する論文数を減らす、分母としてカウントされる論文数を減らすことが考えられる。このようなことを理解した上で、PCN の今後の成長に期待していただきたい。